

年間第三十一主日

2018.11.4

マルコ 12:28-34

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高神父

十一月の死者の月を迎え、今年もこうして祭壇に掲げられた、皆様方からお寄せいただいた大切な方々のお名前に囲まれてこのミサをおささげしています。このように、目に見える形で祭壇の近くに亡くなられた方々のお名前をお飾りしてのミサは一年のうちで一回のことですが、わたしたちはミサの度ごとに、ここにお名前が掲げられている方々だけでなく、神のみもとに召され、神の永遠のいのちの中に迎え入れられた全ての方々とともに、わたしたちのいのちの与え主である神への感謝の祭儀としてのミサをおささげしているのです。

主日のミサの度ごとに、わたしたちは洗礼によって受け入れ信じているカトリック信者としての神への信仰を新たに宣言しています。その信仰に結ばれて、わたしたちはここに集って、わたしたちのいのちの源、全てのものの創造主である父なる神への感謝の祭儀としてのミサをおささげしているのです。わたしたちがこのミサの中で新たにする父と子と聖霊の神への信仰は、父と子と聖霊の神によってわたしたちの中に注がれている永遠のいのちを信じる信仰です。この世に生きるわたしたちは洗礼によってキリスト教の信仰に招き入れられ、イエス・キリストの十字架の死と復活を通して開かれた父と子と聖霊の神のいのちの中に迎え入れられて、信仰によってそのいのちの中に生きる者たちとされたのです。わたしたちがささげるミサは、イエス・キリストの十字架の死と復活を通して開かれた神の永遠のいのちに招き入れられたことを感謝する感謝の祭儀なのです。ミサとはそのようなものであることによって、この世に生きるわたしたちのささげるミサは、わたしたちのもとから神のみもとに召され、神の永遠のいのちの中に迎え入れられている全ての方々のいのちと結ばれているのです。神のみもとにおける永遠のいのちの中に迎え入れられた全ての方々は、この地上でわたしたちがささげるミサが、その方々が神のみもとで味わっている至福の喜びに満たされた感謝の祭儀となるようわたしたちと共にいて、わたしたちを励ましてくださっているのです。

父と子と聖霊の神を信じる信仰宣言に続いて、わたしたちは、聖なる普遍の

教会、聖徒の交わり、からだの復活、永遠のいのち信じる信仰を宣言します。ここに、父と子と聖霊なる神がわたしたちを招きいれてくださったいのちの世界が広がっています。今日ここに集ってわたしたちがささげているミサは、わたしたちが招きいれられている聖なる普遍の教会の中でささげられるミサです。ここに集っているわたしたちは、お互い同士皆が互いによく知り合っているわけではないかもしれません。祭壇の前に掲げられているお名前の全ての方々と面識があったわけでもありません。けれどもこのミサにおいて、わたしたちが信じている普遍の教会、全ての人がそこに招かれている普遍の教会が広がっているのです。このミサの中で祭壇に掲げられている、亡くなられた方々のお名前は、このミサが地上における聖徒の交わりの場であることを示しています。今日のミサの中で、わたしたちはここにお名前が掲げられている方々のために祈りをささげています。その祈りに結ばれて、この方々は復活の永遠のいのちの中におられるわたしたちの主イエス・キリスト共に、わたしたちの中にいてくださるのです。からだの復活、永遠のいのちを信じる聖徒の交わりである普遍の教会の中で、わたしたちがささげているこのミサにおいて、わたしたちは、復活の永遠のいのちの中に迎え入れられている全ての方々と結ばれて、永遠のいのちへの道を開いてくださった、わたしたちの救い主イエス・キリストの死と復活を記念するこのミサをおささげしているのです。

今や永遠のいのちの中に迎え入れられている全ての方々が共に味わっている永遠のいのちにおける至福の喜びへの希望を新たに、このミサをおささげしたいと思います。

そのためにも、今日の福音のイエスの教えを新たに胸に刻み、わたしたちの集いが、真に聖徒の交わりとなって広がってゆくよう祈りましょう。主の過ぎ越しの神秘に結ばれて、からだの復活、永遠のいのちを信じる信仰者たちとして、この世の生死を越えた交わりを深めてまいりましょう。